鑛夫就業扶助規則中改正の件公布

鑛夫就業扶助規則中改正の件は、昭和十八年六月十六日付官報を以て左の如く公布せられた。

鑛夫就業扶助規則中改正ノ件

（昭和十八年六月十六日　厚生省令第二十二號）

第十二條第四號中「電動機、發電氣ノ抵抗器、變壓器又ハ「コツトレル」集塵裝置ニ屬スル整流機」ヲ「電動機又ハ變壓器」ニ改ム

第十三條第三號　削除

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正五年八月三日農商務省令第二十一號鑛夫就業扶助規則抄錄

第十二條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

（左記略ス）

第十三條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

三　土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

關東州勞務調整令の公布

關東州勞務調整令は、昭和十八年六月九日付官報を以て左の如く公布せられた。

關東州勞務調整令（昭和十八年六月八日　勅令第四百八十九號）

第一條　國家ニ緊要ナル事業ニ必要ナル勞務ヲ確保スル爲ニスル關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法（以下國家總動員法ト稱ス）第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ雇入、使用、解雇、就職及退職ノ制限ハ本令ニ又ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外勞務調整令ニ依ル但シ同令第一條、第六條、第八條、第十一條及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

勞務調整令中國家總動員法トアルハ關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法、學校卒業者使用制限令トアルハ關東州學校卒業者使用制限令ニ於テ依ルコトヲ定メタル學校卒業者使用制限令、厚生大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、地方長官トアルハ關東州廳長官、國民職業指導所長トアルハ關東職業指導所長、國民職業指導所トアルハ關東職業指導所、國及道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノトアリ又ハ國及道府縣トアルハ國、市及會、國又ハ道府縣トアルハ國、市又ハ會、道府縣トアルハ市又ハ會、國民學校修了者トアルハ初等學校修了者、第四條、第六條又ハ第七條トアルハ第四條、第七條又ハ關東州勞務調整令第二條トス

第二條　本令施行後關東州ニ於ケル國民學校（以下國民學校ト稱ス）ノ高等科ヲ修了シ又ハ公學堂ノ初等科若ハ高等科若ハ普通學堂ヲ修了シ若ハ中途退學シタル後二年ヲ經過セザル男子ニシテ技能者タラザルモノ（以下初等學校修了者ト稱ス）ノ雇入及就職ハ關東職業指導所ノ紹介ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ國、市及會ニ於ケル雇入及就職ノ場合竝ニ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　勞務調整令第七條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

一　勞務調整令第五條第二號ノ場合

二　國、市及會ニ於ケル一般青壯年ノ雇入及就職ノ場合

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

第四條　國民學校ノ初等科若ハ高等科、公學堂ノ初等科若ハ高等科又ハ普通學堂在學中ノ者ヲ雇入レ其ノ者ガ國民學校ノ高等科、公學堂高等科若ハ普通學堂ヲ修了シ若ハ公學堂初等科ヲ修了シ公學堂高等科ニ進學セザル場合又ハ公學堂ノ初等科若ハ高等科若ハ普通學堂ヲ中途退學シタル場合引續キ其ノ者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ガ國民學校ノ高等科、公學堂ノ高等科若ハ初等科若ハ普通學堂ヲ修了シ又ハ公學堂ノ初等科若ハ高等科若ハ普通學堂ヲ中途退學スル時ニ於テ新ニ雇入レ及就職スルモノト看做ス

年齡十四年未滿ノ者ヲ雇入レ引續キ其ノ者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ勞務調整令第七條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ガ年齡十四年ニ達スル時ニ於テ新ニ雇入レ及就職スルモノト看做ス

事業主其ノ雇傭スル從業者ニ付工場、事業場其ノ他ノ使用ノ場所間ニ所屬ノ移動ヲ行フ場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ後ノ使用ノ場合ニ於テ新ニ雇入レ及就職スルモノト看做ス

第一項及第二項ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ新ナル雇入ニ關シ第二條若ハ勞務調整令第七條ノ規定ニ依ル認可又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依ル認可ノ申請アリタルトキハ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分アル時ニ新ニ雇入レ及就職ス

ルモノト看做ス

第五條　第二條及前條第一項ニ於テ國民學校ノ初等科若ハ高等科又ハ公學堂ノ初等科若ハ高等科トアルハ關東州ニ於ケル之ニ準ズベキモノヲ含ム

附　則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

〔參照〕

昭和十三年四月一日公布法律第五十五號國家總動員法抄錄

第六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇、就職、從業若ハ退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

國民職業能力申告令中改正の件公布

國民職業能力申告令中改正の件は、昭和十八年六月六日付官報を以て左の如く公布せられた。

國民職業能力申告令中改正ノ件

（昭和十八年六月八日勅令第四百八十八號）

國民職業能力申告令中左ノ通改正ス

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條ニ掲グル國民勞務手帳法ノ施行ニ關スル規定ハ臺灣及南洋群島ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規定トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年一月七日公布勅令第五號國民職業能力申告令抄錄

第十六條　要申告者（第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付國民勞務手帳法施行令第一條、同令附則第二項又ハ昭和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ第四條第一項ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

要申告者（第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付國民勞務手帳法施行令第十四條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依ル報告アリタルトキハ第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

勤勞顯功章令改正の件公布

勤勞顯功章令改正の件は、昭和十八年六月二十四日付官報を以て左の如く公布せられた。

勤勞顯功章令改正ノ件

（昭和十八年六月二十三日勅令第五百二十七號）

第一條　勤勞顯功章ハ工業、鑛業（砂鑛業及土石採取業ヲ含ム）、農林畜水産業、交通業（通信業ヲ含ム）若ハ商業（之ニ準ズル事業ヲ含ム）ニ從事スル者（以下勤勞者ト稱ス）又ハ其ノ團體ニシテ平素其ノ職務ニ精勵シ勤勞報國ノ實ヲ擧ゲ他ノ模範タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

前項ノ規定ニ依ルノ外勤勞顯功章ハ勤勞者又ハ其ノ團體ニシテ危難ヲ顧ミズ其ノ職責ヲ盡シ其ノ行爲他ノ模範タルモノニモ之ヲ授與スルコトヲ得

第二條　勤勞顯功章ハ徽章及賞狀ノ二種トシ之ヲ受クベキ者勤勞者ナルトキハ之ニ對シ徽章ヲ、團體ナルトキハ之ニ對シ賞狀ヲ授與スルモノトス

徽章ノ形狀及制式竝ニ賞狀ノ樣式附圖ノ如シ

第三條　勤勞顯功章ハ主務大臣之ヲ授與ス

第四條　徽章ハ之ヲ右肋ニ佩ブルモノトス

第五條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外勤勞顯功章ノ授與、返納其ノ他勤勞顯功章ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條　本令中主務大臣トアルハ第二項及第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外厚生大臣トス

本令中主務大臣トアルハ農林畜水産業ノ勤勞者又ハ其ノ團體ニ關シテハ農林大臣、船員及航空機職員又ハ其ノ團體ニ關シテハ遞信大臣トス

本令中主務大臣トアルハ前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外第一條ノ規定ニ依ル事業ノ經營者（經營擔當者ヲ含ム以下同ジ）若ハ其ノ團體又ハ經營者ト他ノ勤勞者トノ團體ニ關シテハ其ノ事業ノ主務大臣トス

但シ工場事業場管理令ニ依リ管理スル同令ノ工場事業場ニ關シテハ當該管理ノ主務大臣トス

第七條　本令中主務大臣トアルハ國ノ事業ニ使用セラルル勤勞者又ハ其ノ團體ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ノ主務大臣トス

第八條　本令中主務大臣トアルハ工場事業場管理令ノ主務大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合及陸軍又ハ海軍ノ事業ニ使用セラルル勤勞者又ハ其ノ團體ニ關スル場合ヲ除クノ外朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ大東亞大臣トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス